

平成 29 年度 大学病院災害管理技能者(UDME)養成研修会を開催しました (2017/12/14-15)

テーマ：大学病院災害管理技能者（UDME）養成研修会、大学病院の災害医療対策
場所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市）

2017 年 12 月 14 日(木)、15 日(金)、東北大学災害科学国際研究所において、国立大学附属病院長会議主催（災害対策担当校：東北大学病院）、東北大学災害科学国際研究所共催による平成 29 年度国立大学病院災害管理技能者(UDME: University Hospital Disaster Management Expert)養成研修会を開催しました。災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野の佐々木宏之助教が東北大学病院災害対応マネジメントセンター、東北大学病院総務課と協働して運営実施にあたりました。

UDME 養成研修会は、各大学病院において災害対応計画策定に関与し、平時からの災害資器材の管理・整備、訓練時の指導者・教育者として、また実災害時には災害対応実務者として率先して活動する災害管理技能者を養成する研修会です。東北大学は平成 28 年度、29 年度の幹事校となっており、2 年連続 2 回目の開催です。

当日は、北は旭川医科大学病院、南は琉球大学医学部附属病院から合わせて 24 大学病院、98 名の受講者が参加しました。各大学病院は医師 1 名、看護師 1 名、薬剤師 1 名、事務職 1 名の 4 人 1 組でチームを構成し研修に参加します。受講者は文科省・厚労省からのレクチャー、座学、ワークショップ、Skill Station、2 日目の職種別研修などにのぞみました。ワークショップでは各自の大学病院災害対策マニュアルを持ち寄り、自院の欠けている部分、課題などについて検討しました。また、Skill Station では寒風の吹きすさぶ屋外エントランスで衛星携帯電話の実技実習があり、それまで衛星携帯電話に触れたことのない病院幹部らが、持参した自院の衛星携帯電話を四苦八苦しながら組み立て、かじかむ指で操作していました。また 2 日目の午後には里見進東北大学総長を交えた東日本大震災時の東北大学病院、石巻赤十字病院の対応を振り返る座談会が企画され、集まった大勢の受講者は、東日本大震災時の生々しい対応や病院幹部の苦悩、裏話に熱心に耳を傾けていました。

1 日目のプログラム終了後、当研究所向かい側にある青葉山コモンズ内「みどり食堂」に移動し、意見交換会が開催されました。受講者は「笑顔の見える関係」づくりに、他大学との交友を深めていました。参加者からは災害研のアクセスの良さ、施設・設備の快適さ、研究所設立のユニークな経緯などに感嘆の声があがっていました。



挨拶する今村文彦所長



多目的ホールの様子



衛星携帯電話実技訓練



クロノロジー実技訓練



職種別研修（事務：被害分類）



講演する里見進東北大学総長

文責：佐々木宏之（災害医学研究部門）